

## 市民まちづくり会議・むさしの 2015 年 第1回定例会 議事及び記録

日時： 2015 年 7 月 17 日（金） 19:00～21:30

場所： 吉祥寺、商工会館 3F、消費生活センター講座室

出席： 青木、内門、勝倉、篠原、高田、中村、中島、西村、村井、南（敬称略 50 音順）

司会： 内門

### 1. 景観ウォッチングの今後の予定(南)

南副代表から「武蔵野市の景観まちづくりに向けたメモ」が配布され、次の通り、目的や活動方法、今年度の取組み予定（案）の説明があった。

今回は、8 月 21 日（金）に「景観勉強会」を行い、6 月に実施した武蔵境エリアの景観ウォッチングの結果に基づき、議論を行うこととした。

#### ○活動の目的

- ・武蔵野市のまちづくりにおける環境の質の向上に向けて、景観整備への取り組みを進める。
- ・武蔵野市らしい緑豊かな低層、中高層の住宅地の景観整備および、個性的で魅力ある 3 駅周辺の商業地域の景観整備を重視する。

#### ○活動の方法

- ・景観整備に関する情報の共有化を図るため、景観ウォッチング、自主研修（先進地視察、ヒアリングおよび自主勉強会）を重視する。
- ・景観の向上には長い年月が必要とされるため、武蔵野市が取り組む景観ガイドラインの策定や景観セミナー等とも適宜連携を図ることなどにより、効率的な事業展開に配慮する。
- ・市が取り組む景観ガイドライン策定にあたり、市との連携や市民会議等の調整を依頼された場合は、次の取組み予定においても柔軟に対応し、引き受ける。

#### ○今後の取組み（案、一部決定）

6 月 景観ウォッチング（武蔵境エリア）

8 月 景観ウォッチングの成果を用いた勉強会（武蔵境）

8 月 21（金） 19 時～21 時、西久保コミセン

9 月 景観ウォッチング（三鷹地区）

先進地視察 例： 世田谷区（7～8 年前景観条例制定）

10 月 景観ウォッチングの成果を用いた勉強会（三鷹）

景観ウォッチング（吉祥寺商業地区）

11 月 景観ウォッチングの成果を用いた勉強会（吉祥寺商業地区）

景観ウォッチング（吉祥寺住宅地）

先進地視察 例： 銀座

自主ルールをつくり景観をコントロール、条例ではないのが特徴。

12 月 景観ウォッチングの成果を用いた勉強会（吉祥寺住宅地）

1 月 市との話し合い、景観セミナー等

2 月 来年度の取組みの検討

## 2. 景観ガイドラインに関する市からの要請(篠原)

市のまちづくり推進課から、現状において詳細内容や市の意図は不明であるが、9月頃にできる景観ガイドライン(案)に基づき、市民の意見を聴取し、反映させていく手続きをやる予定であること、その際に、都市計画マスタープランの見直しやまちづくり条例の際に行ったような市民会議の場を、まちづくり会議にて運営して欲しいとの要請があった。

今後、市とも調整の上、柔軟に対応したい。

ただし、先進事例や本来の理想像からすると、まず景観事業を行うことを市の条例を策定し掲げた腕、景観ガイドライン策定に入るのが道筋と考えられ、市はどのように対応するつもりなのか、そのあたりの方針は分からず、今後、議論していく必要があるかもしれない。

## 3. 市による景観ワークショップの状況(篠原、南)

市が主催する景観ワークショップには、南代表(まちづくり委員会市民委員として)及び篠原(市民として応募)の2名の他、まちづくり会議の会員も数名参加している。

オリエンテーション及び、武蔵境地区、西久保地区、吉祥寺商業地区の3地区の景観ウォッチングを終え、9月6日の武蔵野プレイスフォーラムでの結果の公表(展示)の準備に入っている。8月10日にそのための準備会を行う(19時～、武蔵野プレイス3階スペースC)。基本的に市内の優れた景観を発見し、景観の重要性を認識してもらうプログラムである。

こうした機会への参加を通じ、市民の認識状況の確認や市との連携を深めていく方針である。

## 4. 外環その2(西村、村井)

7月9日に第21回「話し合いの会」が商工会館ゼロワンホールで開催された。渡辺氏の司会は、何とか今年度一杯継続されることとなったため、今年度中には東京都としては、話し合いの会をまとめたいて考えているという見方がある。

それに先立つ6月30日には、武蔵野公会堂にて外環2武蔵野訴訟判決報告集会が行われる予定であった。残念ながら、判決は杉並訴訟との関係で延期との事前連絡があったため、講演会とパネルディスカッションに変更されたが、市民の関心度の高さが表れ、約200名の参加者を得て盛会であった。

大深度法に基づく杉並側からの本線工事が始まっており、地上部の住民に対し、家屋検査の要請が入っている。何もないはずだが、何かあった際に、家屋検査を受けていないと補償できないと言われており、このことが、逆に本線工事に対する不安を募っている。

## 5. 暮らしフェスタ2015年の参加内容について(内門、村井)

村井副代表が「市民生活と街の農業」をテーマに執筆し、その内容を武蔵野プレイスのギャラリーで10月2日(金)～3日(土)に展示すると共に、8日の青空市場でも公表する予定である。

## 6. ウェブサイトの更新(篠原、山田)

懸案事項であったウェブサイトの更新に着手した。もとのウェブサイトは、当時のわずかな予算を反映し、固定的で基本的に更新できない構造をとっていたが、今回は予算を確保できたので、つぎのような内容のものに初年度の維持管理を含めて20万円強をかけて更新することとし、既に更新作業を山田副代表のオフィス用ウェブサイト进行管理している小林氏に依頼した。同時に、従来から利用してきたさく

らインターネットサーバーよりも安価なものを利用できることが分かったため、サーバーを移転することとした（これにより年間 12,622 円から 7,322 円へと 42%の費用削減が可能となる）。

現在のドメインである `matimati.or.jp` を `matimati.jp` などに変更すると、さらに年間 1,000~2,000 円の節約が可能だが、`or.jp` は現状では希少価値の高いドメイン（財団法人などが使う）で、オークション市場では数万円の価値があるため、引き続き維持することとした。

新たなウェブサイトのイメージは次のとおり。

今後、プロトタイプができたら、各役員には試用してもらい、さらに小林氏と公開完成版に向けた修正や調整を行うこととしている。

- ①現在のゲートページや内容は一新する。固定的な背景はやめ、写真等に置き換える。写真等の壁紙は常に新しいものに更新可能。まちづくり会議のロゴはこのまま維持する。
- ②「これまでに実施した事業」の内容は固定的で更新が難しい（html 全体を更新しなければならない）ため、ブログ風にリアルタイムで更新可能なものとする。どんどん、各役員や会員によるまちづくり活動の内容を掲載し、古くなったら、アーカイブに移し、過去のものも参照できるようにする。定例会の開催案内や記録などもここに掲載する。情報のアップロードに用いる専用ソフトの使い勝手を試したが、極めて簡単であるため、少なくとも、各役員には公開し、各役員が自由に活動内容をいつでもアップロードできるようにする。各活動やイベントに関連した資料の PDF や写真は、ブログ風の画面や文章に張ったリンクから参照できるようにする。
- ③「これまでの歩み」についても更新版があるので、更新し、常にまちづくり会議の最新実績を公開できるようにする（ブログにアップロードした内容を実績に追加していく）。
- ④「会員制掲示板」はパスワードによる会員限定の掲示板であるが、既にこうした閉鎖的な掲示板の時代ではないことと、利用実績に乏しいこと、会員間のやりとりはメーリングリストで十分なため廃止する。
- ⑤「ABOUT US」は、いつでも更新できるようにし、維持する。
- ⑥「お問い合わせ」は現状でも機能しており、このまま維持する。
- ⑦「ニュース」は今後「メルマガ」風にする予定だが、現状で編集を担当可能な役員や会員がおらず、コンテンツもないことから、枠組みだけを確保しておく。過去の「ニュース」については、掲載されていないものも、保存版のニュースから PDF 化し、アーカイブとして保存する。
- ⑧「シンポジウム」については、それだけを掲載するのではなく「事業・イベント」とし、ブログ風に掲載する事業等のアーカイブとして参照できるようにする。今後、ブログに掲載された情報は、すべて順次この部分にアーカイブとして残すこととなる。
- ⑨新たに、まちづくり会議の活動情報だけではなく、「まちづくり What's New」といった情報リソースのコンテンツを設ける。ここではまちづくりに関する世の中の動きや制度等の変更、国内外のユニークなまちづくりなどの関連情報を紹介する部分とし、他の団体によるイベント情報や、専門的な論文なども参照できるようにしたい。その結果として、中長期的にはまちづくりデータベースが構築され、会員や一般の方の関心が集まるようにしたい。
- ⑩アクセス数をカウントできるようにする。

## 7. プレイス西通りの会の活動報告(中島、篠原)

市民が憩えるプレイス西通りの会（通称、「プレイス西通りの会」）を 4 月 5 日に設立し、規約に記し

たとおり、①緑豊かで、市民が憩い、楽しめるみちづくり、②景観、自然環境、歴史を護るみちづくり、③歩行者、自転車のがのびのびと安全、快適に移動できるみちづくり、④現行道路と市有地のみを使用し、過剰財政支出を行わないみちづくりを目的に、プレイス西通り整備の実現を目指す活動を開始。現在の会員は、清本、久木野、篠原（副代表）、高木、田中、田村、坪原（副代表、事務局長）中島（代表）の8名（敬称略、50音順）。現状の活動状況は次のとおり。

- ①中島氏より市長に対し、プレイス西通りを既存計画通りに整備することには法的に問題があるむねを指摘してきた経緯があり、市も東京都の調整を終えて、最終的に都市計画決定の変更を行うか、既計画通りに進めるかを決定する段階にある。各方面からの情報では、市は変更に向けて対応を進めているようであり、8月中に何らかの動きが出る見通し。
- ②こうした方向に動くことを睨み、坪原副代表により、既に西通りやJR高架下における自転車走行のパターンや量を、オランダなどの事例を用いて計測する試行を行っており、市が結論を出したら直ちに、市に対し、こうした調査の実施を提案する予定。さらに、市民会議などを企画実施し、地権者である観音院の協力や市民の意見を反映させながら、会の目的に沿った活動を推進する。
- ③この事例が成功した場合、さらに文化会館通りなどの自転車道整備にも活用し、活動範囲を広げるとも視野に置いている。

## **8. 武蔵境活性化委員会への参加(篠原)**

上述のように、市からの要請もあり、今後、まちづくり会議が景観に向けて、市民会議を設けるなどの活動を展開するにあたり、住宅地の整備や市民の意見のみならず、商業地における景観整備や商工者の意見を反映させることは重要な課題と考えている。

武蔵境地区では、武蔵境活性化委員会が商工関係につき、朝市や青空市場など、非常に有意義な活動を展開しており、毎年の報告会には、当会も招かれている。したがって、同委員会とのネットワークをつくることは、今後のまちづくり会議の活動にとっても重要である。

このため、武蔵境活性化委員会をリードする高橋勇会長と面談を行い、このような状況を説明し、今後の協力関係の構築をお願いした。1時間半にわたり、広範なまちづくり課題について意見交換ができ、非常に有意義であった。同氏は商工会の副会長でもあり、武蔵境のまちづくりとともに、三鷹や吉祥寺のまちづくりについても、協力を仰いでいきたい。

なお、同氏から、商工関係のまちづくりにおいては、完全に三鷹市の追い抜かれているとの発言があり、同市が武蔵野市の現状について憂いていることが分かった。さらに、商工関係者は実際には日常的な個々の業務に精一杯で、同委員会の活動にもなかなか参加してくれないことや、まちづくりという観点まで対応できていないという指摘があり、問題意識を共有できたと思う。

## **9. その他**

次の定例会は9月11日（金）19時から商工会館3F講座室。その前に8月21日（金）19時から西久保コミセンで景観勉強会を行う。

以上／文責（篠原）2015.07.27 作成